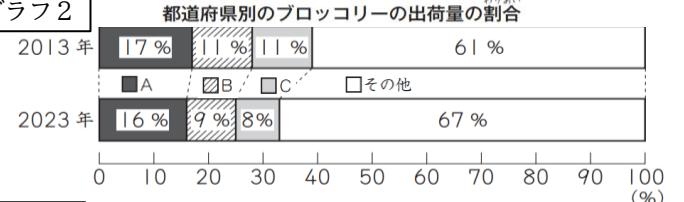


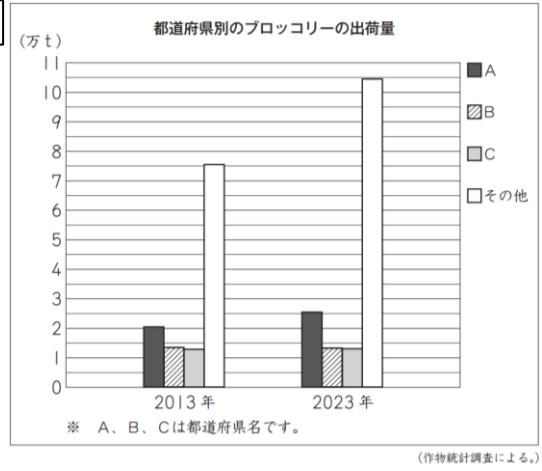
算数

1 (2) 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

グラフ2



グラフ3



目的に応じて複数のグラフからデータの特徴や傾向を捉え、全体量の大小を判断し、その判断の理由を他者に分かりやすく表現できる児童の割合が、全国と比べて高い傾向にあります。

本設問のような多様な解決方法が可能な問題（非定型問題）は、一人一人の考えを関連付けることで、グラフが何を表しているかについて理解が深まり、思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。

理科

3 (4) レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる問題



条件

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし



水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の（条件）の中から1つ選んで調べてみたい。



発芽する条件について、すでに検討した条件とまだ検討していない条件を区別し、一つだけの条件を取り上げて検討しようとするなど、複数の事柄を関連付けて、自分の言葉で表現しようすることが大切です。

一人一人が結果に基づいて必要な条件を選び、条件を統制したうえで、どう調べるかを考えることで、科学的思考がさらに深まっていきます。

一問題

2023年の都道府県Aのブロックコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、ア（増えた）、イ（減った）から選びましょう。
・その記号を選んだ理由を、言葉や数を使って書きましょう。
・どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

正答例

記号【ア】

グラフ3をみると、2013年の都道府県Aのブロックコリーの出荷量は約2万トン、2023年の都道府県Aの出荷量は約2.5万トンで2023年の方が多い。だから、都道府県Aのブロックコリーの出荷量は増えている。



算数 調査問題

保護者のみなさんとともに考える

加古川市の学力・学習状況（小学校）

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果より

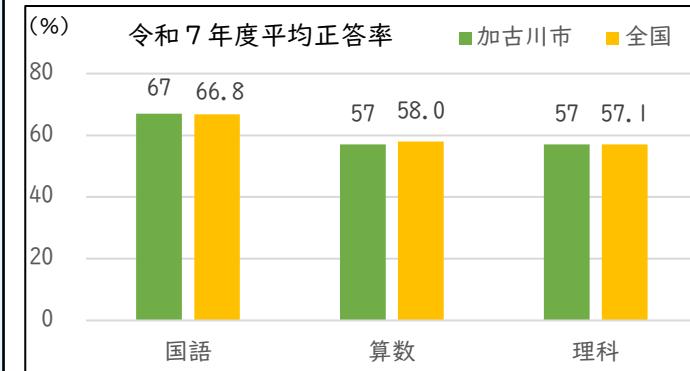
令和7年4月、児童の学力・学習状況の分析、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的として、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査における加古川市の児童の現状を分析し、結果をまとめました。

- ・3教科とも平均正答率（以下、正答率という）は、全国平均（以下、全国という）と同程度です。
- ・基礎的な知識や技能は身に付いており、成果がみられます。
- ・思考力、判断力、表現力について、課題がみられます。
- ・記述式問題で、自分の考えを書いている児童の割合が高く、協同的探究学習※の理念に基づいた授業の成果が表れています。



協同的探究学習※についてこちら



掲載している内容は、学力・学習状況の一側面を示すものであることを踏まえつつ、以下のポイントに示すような「協同的探究学習※」の理念を取り入れ、授業の改善や家庭との連携のあり方について考えるきっかけとし、これから時代に求められる資質・能力の育成を図ります。

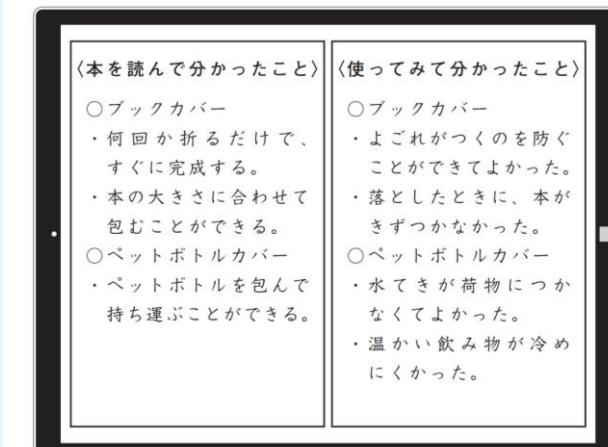
国語

2 三 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

調べたこと



一問題

山田さんは、【ちらし】の書き表し方について相談し、下線部をくわしく書いた方がよいと考え、【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。

- ・【ちらし】の下線部を書き直し、くわしくすること。
- ・【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれから言葉や文を取り上げて書くこと。

正答例

手ぬぐいは、何回か折って本を包むとブックカバーになり、汚れがつくのを防ぐことができる。また、ペットボトルを包んで持ち運ぶこともでき、水できが荷物につくのを防ぐことができる。



国語 調査問題



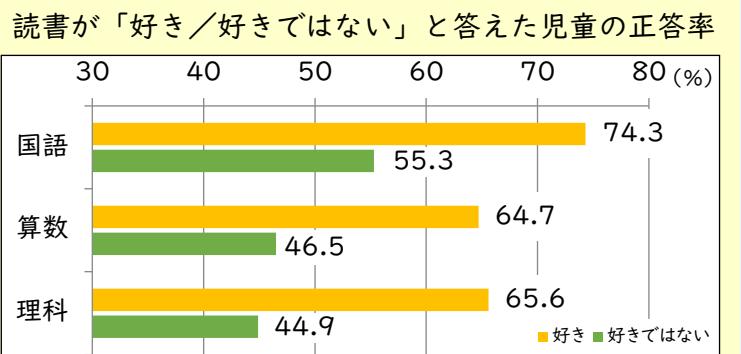
自分の考えを書く児童の割合が、全国と比べて高い傾向にあります。誤答には、一方の条件については満たしていますが、もう一方の条件は満たしていないといった解答が見られました。授業において、多様な考えを関連付けた後、複数の箇所から言葉や文を選び出してつなげて書き表すことや、自分の考えが伝わるように複数の情報を関連付けて書き表すことを、学習の中で行っていくことで、思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。

児童の学力を育む 家庭での取り組みポイント

※回答項目（例：「している／どちらかといえば、している／どちらかといえば、していない／していない」）のうち、「している／していない」など、2つを取り上げて比較しています。

Point 読書

普段から（短時間でも）読書をしている、または読書が好きと回答した児童ほど、正答率が高い傾向がみられました。読書に親しむことで新たな知識を得たり、視野を広げたりすることができます。

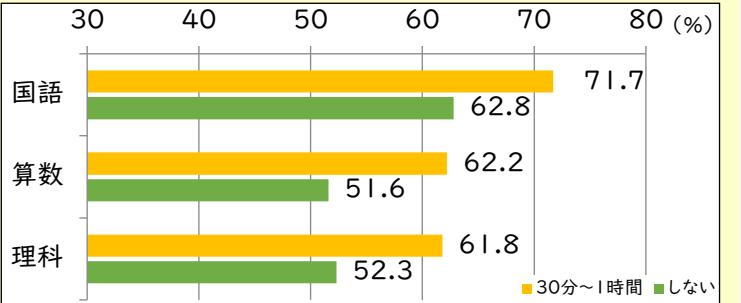


加古川市では、いつでも読書ができるように、電子図書館に「読み放題」のコンテンツを導入しています。利用者IDとパスワードは児童が持っていますので、児童の読書にぜひ活用してください。



電子図書館
「読み放題」

学校の授業時間以外（月～金曜日）の一日あたりの読書時間と児童の正答率

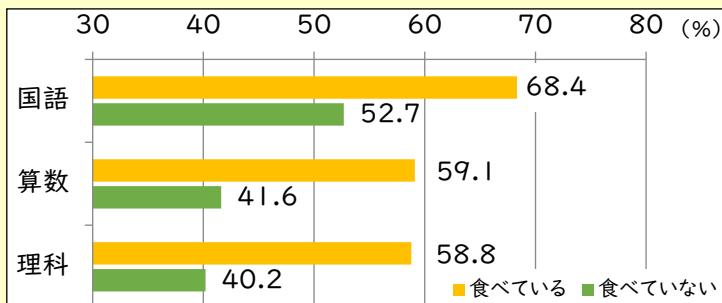


※回答項目には、他に「2時間以上／1～2時間／10～30分／10分以内」がありました。

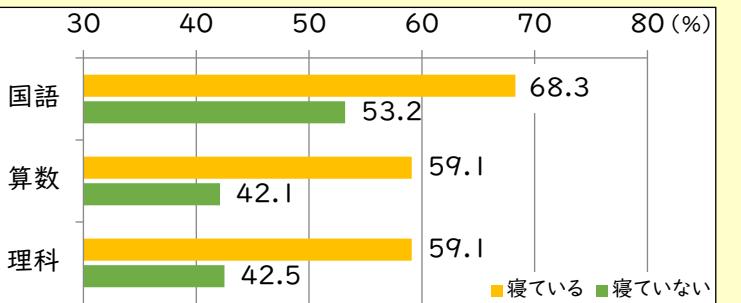
Point 早寝・早起き 朝ごはん

児童の学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、規則正しい就寝や起床、毎日朝食を食べるなど、基本的な生活習慣を整え、家庭での生活を充実させることも重要です。

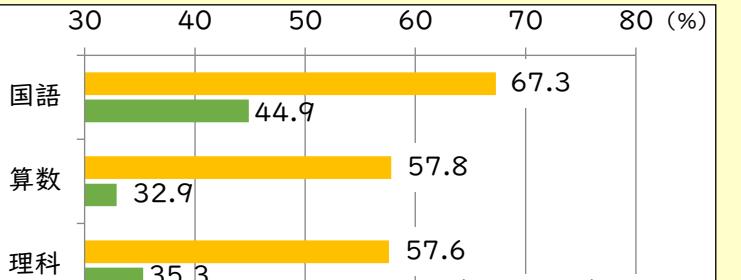
朝食を、毎日「食べている／食べていない」と答えた児童の正答率



毎日、同じくらいの時刻に「寝ている／寝ていない」と答えた児童の正答率



毎日、同じくらいの時刻に「起きている／起きていない」と答えた児童の正答率



加古川市
食育マスコット もぐピー

Point 会話

授業では、「協同的探究学習」の理念を取り入れながら、一人一人の児童の考えを学級全体で共有し関連付けることで、児童は、新しいものの見方や考え方へ気付いたり、自分の考えを深めたりしています。

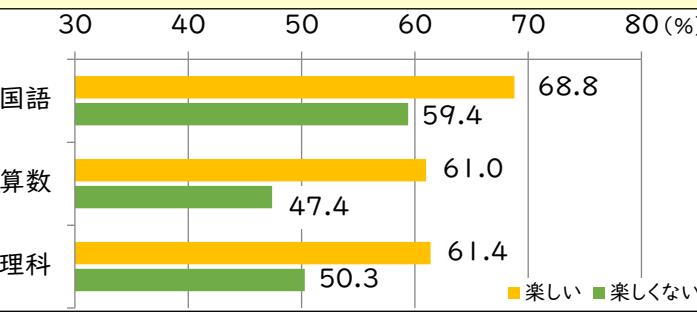
家庭でも、様々な話題について、児童が自分の考えや考えた理由を説明したり、保護者の考えを聞いたりすることは、新しい見方や考え方へふれるきっかけになります。

また、児童は、自分の考えや思いが受けとめられることで、認められたと感じる機会にもなります。

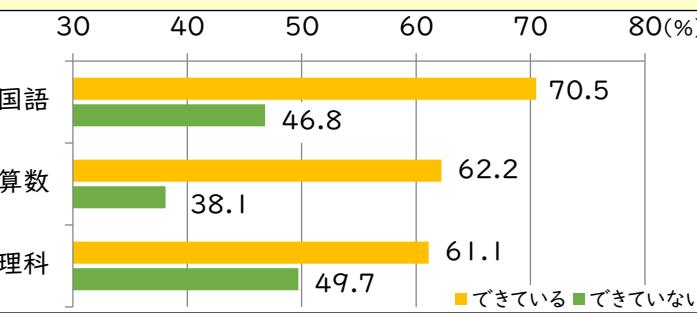
（例えば…）

- ・学校生活（授業・宿題、友だちなど）
- ・日々の出来事（最近あった面白いこと、テレビのニュース）
- ・将来について（進路、夢など）
- ・家族の予定や思い出話
- ・食べ物（給食のメニュー、晩ご飯のメニュー・食べたいもの）
- ・趣味や興味（好きな音楽・アニメ、ゲーム、ファッション）

自分と違う意見について考えるのは「楽しい／楽しくない」と答えた児童の正答率



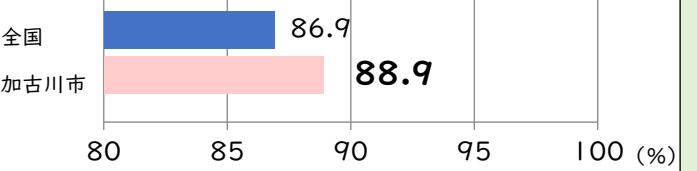
学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたり「できている／できていない」と答えた児童の正答率



自己肯定感が高い傾向にある 加古川市の児童

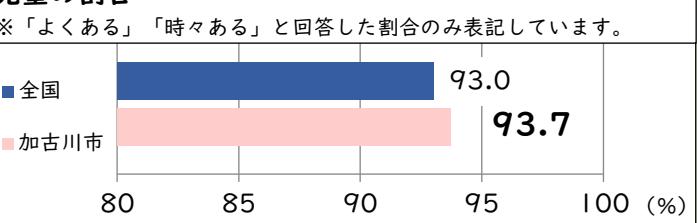
「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合

※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。



「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と答えた児童の割合

※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。



日本のこどもたちには、自分の考えに自信が持てず、表現できないという傾向がみられます。こどもは本来、自分の思いや考えた理由を表現したい、受けとめてもらいたいと思っています。

学校での協同的探究学習と同様に、家庭での会話を通じて、「そうだったんだね」「なるほど」「わかるよ」と、こどものことばを肯定的に受けとめることで、自己肯定感が育ち、これから的人生を歩んでいくうえで大切なウェルビーイング（幸福度）も高まります。



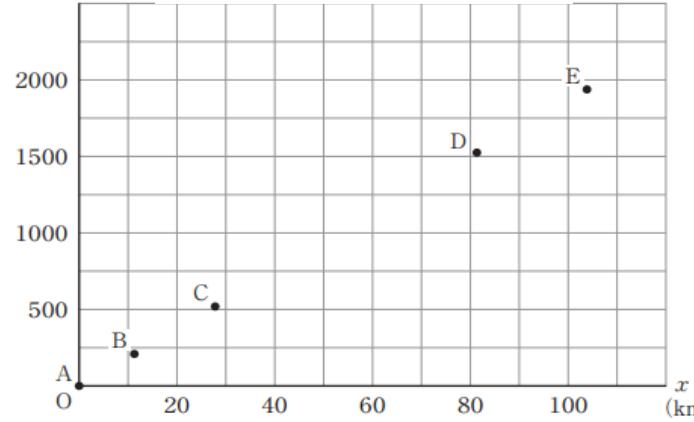
数学

8 (2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる問題

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

A駅からの走行距離と運賃のグラフ



本設問のような多様な解決方法が可能な問題（非定型問題）により、既に学習した図や表、グラフについて確認したうえで、思考力、判断力、表現力等を育むためには、一人一人が自分なりの方法で解決を試みた後、それぞれの解決方法の共通点や相違点などに着目して関連付ける学習が有効です。その中で、式や表、グラフなどを活用する方法を考え、それぞれの方法を関連付けることで理解が深まり、思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。



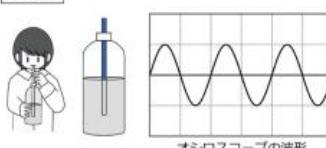
数学 調査問題

理科

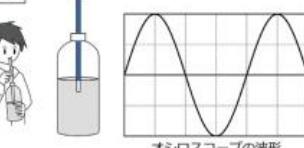
2 (1) 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える

条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる問題

実験1

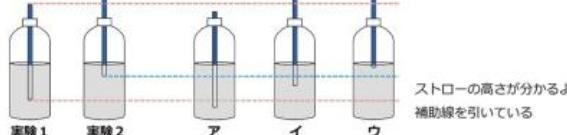


実験2



右のように【考察】しました。

【考察】
「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



全国より自分の考えを書いている生徒が多くみられました。実験結果を基に考察する力を高めるためには、実験からどのような結果になるかを予想するとともに、実験結果について、その結果は何を示しているか、なぜそのような結果が得られたか、また、得られなかつたか、さらに条件を変えるとどうなるかなどについて、一人一人が自分の言葉や図などを用いて考察していく必要があります。そして、クラス全体で多様な考えを関連付けることで、深い学びにつながっていきます。



理科 調査問題

中学校理科の調査は、コンピューター端末を使って実施しており、国語や数学の調査問題と異なる形式で記載されています。

保護者のみなさんとともに考える

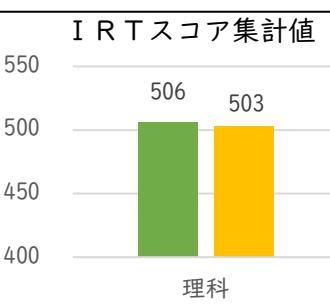
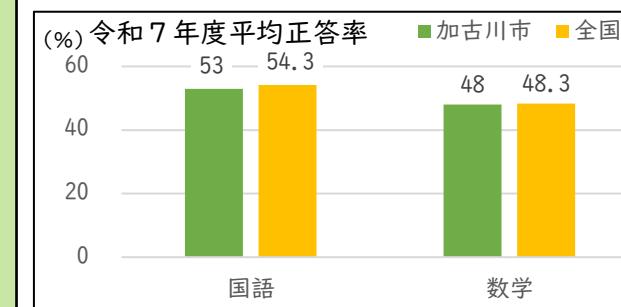
加古川市の学力・学習状況（中学校）

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果より

令和7年4月、生徒の学力・学習状況の分析、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的として、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査における加古川市の生徒の現状を分析し、結果をまとめました。

- 国語と数学の平均正答率（以下、正答率という）は、全国平均（以下、全国という）と同程度です。
- 理科の平均IRTスコア※は、全国を上回っています。
- 基礎的な知識や技能が身に付いており、成果がみられます。
- 記述式問題で自分の考えを書いていない解答があり、思考力、判断力、表現力について、課題がみられます。



(IRTスコアは、単位がありません)

<IRTスコア※とは>
IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表します。中学校理科の調査は、コンピューター端末を使って実施しており、令和7年度から、中学校理科でIRTスコアが採用されています。



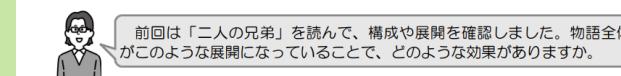
協同的探究学習※についてはこちら

掲載している内容は、学力・学習状況の一側面を示すものであることを踏まえつつ、以下のポイントに示すような「協同的探究学習※」の理念を取り入れ、授業の改善や家庭との連携のあり方について考えるきっかけとし、これから時代に求められる資質・能力の育成を図ります。

国語

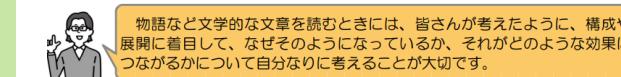
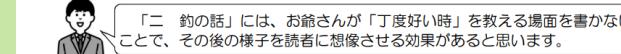
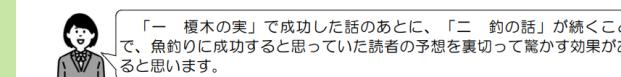
3 四 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題

授業例



※「構成」「展開」「効果」の意味を捉えられない生徒に対しては、必要に応じて別の言葉に置き換えて、具体例を示したりするなどして、自分なりに考えられるようにする。

【生徒の発言の例】



国立教育政策研究所：全国学力・学習状況調査 報告書より（抜粋）

-問題-

□で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 横木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。

このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えと理由を具体的に書きなさい。

・理由を書く際は、物語の内容を取り上げて書きなさい。

-正答例-

読み手に物語の続きを想像させる効果があると思います。なぜなら、「一 横木の実」では、お爺さんの助言によって、二人は好い実を拾うことができましたが、「二 釣の話」では、魚は釣れず、お爺さんからなぜ釣れなかつたか伝えられただけで話が終わっているので、その後、二人が魚を釣れたのかどうかが気になるからです。

国語の調査問題で、「島崎藤村『二人の兄弟』」が使われていますが、web上では閲覧できないようになっています。



国語 調査問題



物語の展開について考える際には、考えた根拠を明確にすることが大切です。そのためには、文章構成や展開について、どのような効果があると考えられるか、なぜそのような効果をもたらすかなど、具体的な本文の展開や構成に言及しながら自分なりの考えを表現することが大切です。

そして、クラスで自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞き合ったりして、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、多様な考えを関連付けながら自分の考えを深めていくことで、思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。

生徒の学力を育む 家庭での取り組みポイント

読書

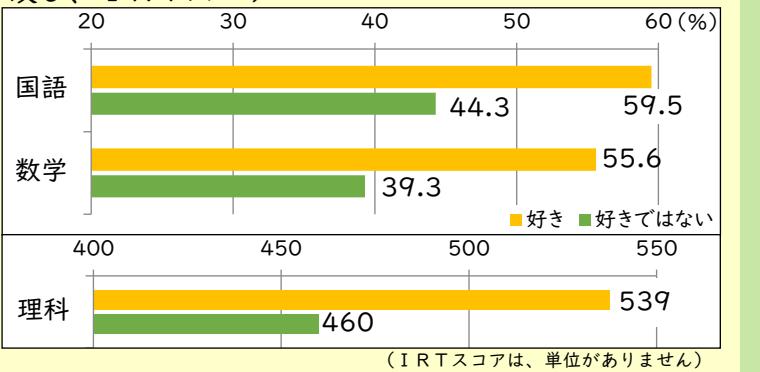
普段から（短時間でも）読書をしている、または読書が好きと回答した生徒ほど、正答率が高い傾向がみられました。読書に親しむことで新たな知識を得たり、視野を広げたりすることができます。

加古川市では、いつでも読書ができるように、電子図書館に「読み放題」のコンテンツを導入しています。

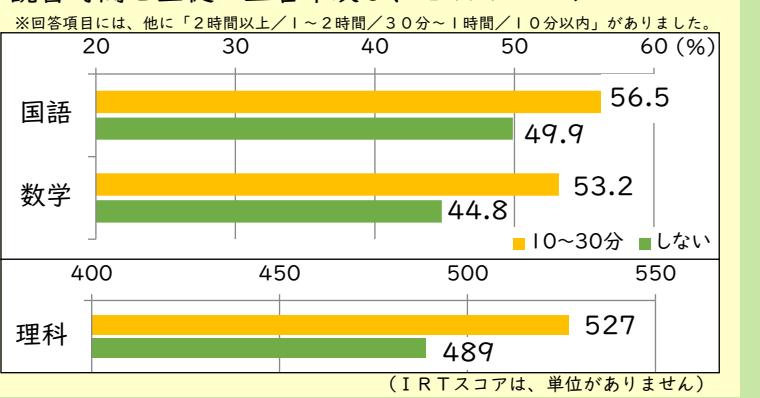
利用者IDとパスワードは生徒が持っていますので、生徒の読書にぜひ活用してください。



読書が「好き／好きではない」と答えた生徒の正答率及び、IRTスコア



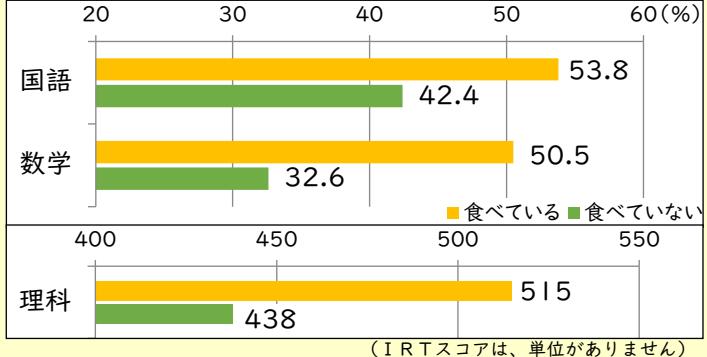
学校の授業時間以外（月～金曜日）の一日あたりの読書時間と生徒の正答率及び、IRTスコア



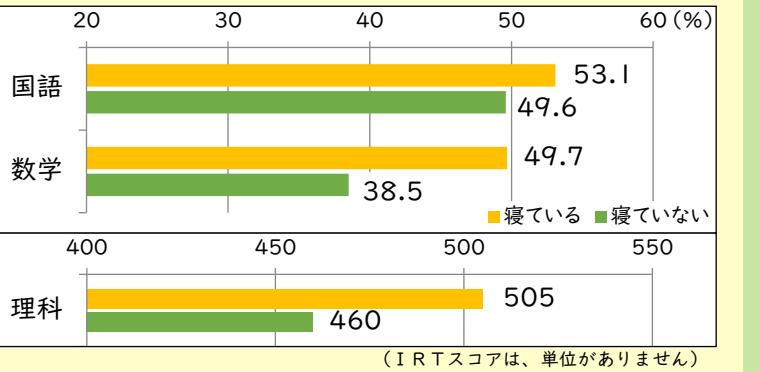
早寝・早起き 朝ごはん

生徒の学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、規則正しい就寝や起床、毎日朝食を食べるなど、基本的な生活習慣を整え、家庭での生活を充実させることも重要です。

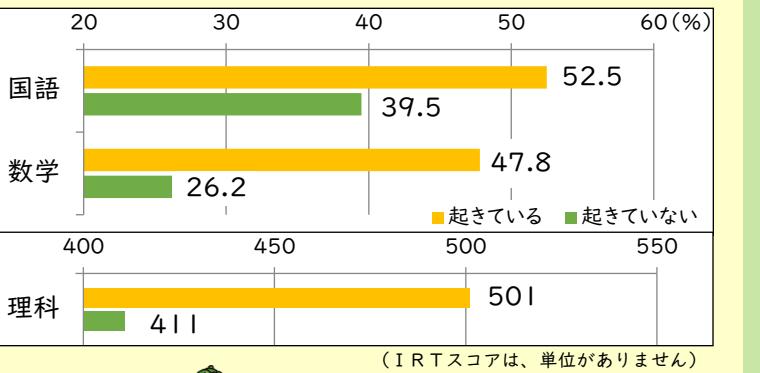
朝食を、毎日「食べている／食べていない」と答えた生徒の正答率及び、IRTスコア



毎日、同じくらいの時刻に「寝ている／寝ていない」と答えた生徒の正答率及び、IRTスコア



毎日、同じくらいの時刻に「起きている／起きていない」と答えた生徒の正答率及び、IRTスコア



加古川市
食育マスコット
もぐペー

会話

授業では、「協同的探究学習」の理念を取り入れながら、一人一人の生徒の考えを学級全体で共有し関連付けることで、生徒は、新しいものの見方や考え方方に気付いたり、自分の考えを深めたりしています。

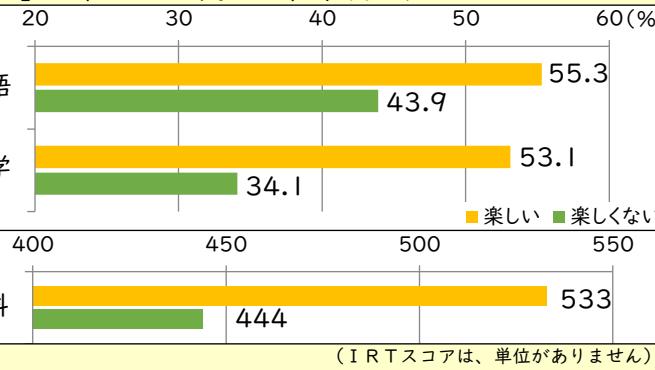
家庭でも、様々な話題について、生徒が自分の考えや考えた理由を説明したり、保護者の考えを聞いたりすることは、新しい見方や考え方につれてるきっかけになります。

また、生徒は、自分の考えや思いが受けとめられることで、認められたと感じる機会にもなります。

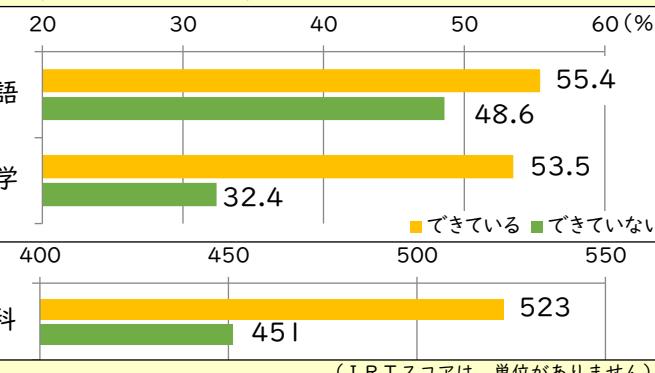
（例えば…）

- ・学校生活（授業・宿題、友だち、部活動など）
- ・日々の出来事（最近あった面白いこと、テレビのニュース）
- ・将来について（進路、夢など）
- ・家族の予定や思い出話
- ・食べ物（給食のメニュー、晩ご飯のメニュー・食べたいもの）
- ・趣味や興味（好きな音楽・アニメ、ゲーム、ファッション）

自分と違う意見について考えるのは「楽しい／楽しい／楽しい」と答えた生徒の正答率及び、IRTスコア



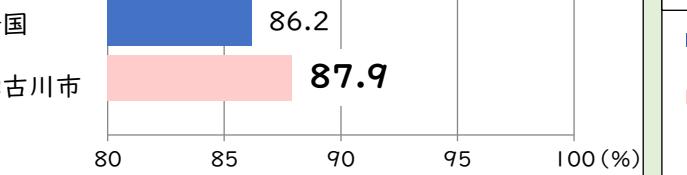
学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方につれてる「できている／できていない」と答えた生徒の正答率及び、IRTスコア



自己肯定感が高い傾向にある 加古川市の生徒

「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合

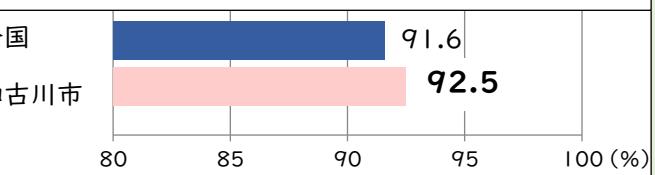
※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。



「

普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と答えた生徒の割合

※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。



日本のこどもたちには、自分の考えに自信が持てず、表現できないという傾向がみられます。こどもは本来、自分の思いや考えた理由を表現したい、受けとめてもらいたいと思っています。

学校での協同的探究学習と同様に、家庭での会話を通じて、「うだったんだね」「なるほど」「わかるよ」と、こどものことばを肯定的に受けとめることで、自己肯定感が育ち、これから的人生を歩んでいくうえで大切なウェルビーイング（幸福度）も高まります。

